サンエイムック 旧車のすべて 日産編②×ホンダ 2011年7月3日発行

G-ワークス保存版 ユーザー目線の旧車選択ガイドブック

SAN-EI MOOK

旧車のすべて

G-ワークス 特別編集

1965年式～ 昭和40年

全車両、実走チェック!

日産編②×ホンダ

セドリック・グロリア

S600/S800

フェアレディZ

人気旧車 今買える'70年代のクルマ全33車輌!!

徹底ガイド

3ドア ファストバック

NISSAN FAIRLADY 240ZG HS30H

昭和47年式(1972年)
日産フェアレディZ

■型式名

挑戦的なロングノーズがフェアレディZG伝説を作った

誰もがカッコいい!!と思えるスタイリング

試乗車の240Zに近づくにつれ、気持ちが高まるのがわかるほどの高揚感…それほど存在感が強いクルマも日本車の中では少ないと思うが、240Zはそれがあるスタイリングだ。ショートデッキ、ロングノーズというそのままのスタイリングは、誌上では伝え切れないほどの迫力と魅力に溢れている。そのようなスタイリングの240Zのドアを開け、シートに座ると、基本的に中期型と呼ばれるS30Zと共通なのが分かる。

しかし、エンジンを掛け、走り出すとその違いは明らか。L20エンジンとは走り出しから違うトルク感があり、3000rpm以下でも充分に実用の範囲、3速2000rpmからの加速でもストレス無く回る。しかも240Zには特別な装備がある。それは、240クロスと言われる240Z専用に設定された、ミッションギヤ比だ。エンジンのトルクフルさに加えて、繋がりのいいギヤ比設定がされていて、それは回転が高ければ高いほど実感できる。

それに合わせて、名機L24のバランスの良さも光る。L20だと力不足、L28だと高回転がだるいと良く言われるが、やはりL24は乗っていて実に楽しい。下からトルクが湧き上がり、しかも高回転も気持ちよく回る。このバランスは見事で、昔から名機と言われるのも納得させられる。

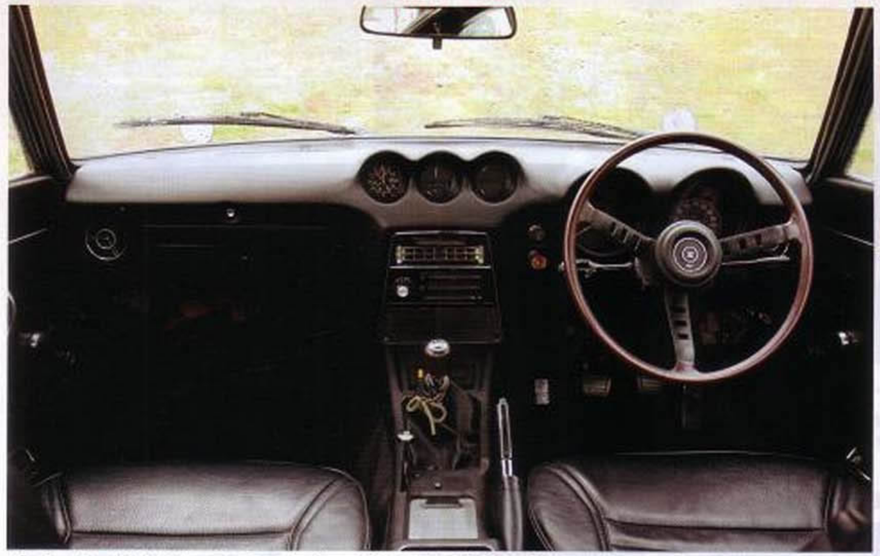
乗り味自体はショートノーズのS30Zと全く同じだけど、ノーズが長い分、取り回しなどの運転には気を遣うが、このスタイルならそれも我慢できる。スタイルからは街乗りは不向き?かと思われるかも知れないが、全くそのようなことはなく、逆に幅が1690mm(現行KSP型Vitzでも1695mmある)しかなく、取り回ししやすく、高速に乗ればL24の吹け上がりの良さとL型6気筒独特の伸びが楽しめる240Zはスタイルだけでなく、走りもやはり名車と言える実力をあわせ持っている。

エンジン&足回り

エンジンは輸出用240Zにも搭載されたL24。国内でスタンダードなL20より400ccも排気量が上がり、装着されるキャブレターもL24専用の大口径タイプとなる。パワーは150 ps、21kgf-mという太いトルクはL型エンジンの持ち味が良く現れた数値だ。撮影車に履いていた、ほぼ純正サイズ(175-HR14)のタイヤでは、オーバーフェンダーまでまだまだ余裕がある

レポート:石川浩幸/写真:岡田孝雄/協力ショップ:愛知県・ロッキーオート Tel:0564-58-7080

室内使い勝手



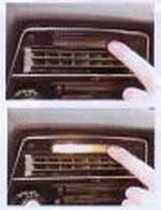
ダッシュボードとセンターコンソールによって運転席と助手席が区切られ、2シータースポーツカーのお手本のようなルックスの室内。ハンドルとシフトノブのウッド調を除いては黒一色で仕上げられており、スタンダードなS30系と共通する箇所も多い。それにしても、ここまで程度の良い車体も今では珍しい

インパネ&コンソール

L24エンジンの特性を反映し、タコのレッドゾーンは7000rpmから始まる。スピードメーターは240km/h表示だ

3連メーター&センターコンソール

ダッシュ中央部には、Zの特徴的装備とも言える3連メーター(時計・電流・燃料・水温・油圧計)があり、その下にはヒーター吹き出し口と操作パネルが位置する



吹き出し口の上には室内の主に手元部分を照らすための補助灯が組み込まれている。オン・オフは透過板の右端を押しておこなう

グローブBOX&センターコンソール

助手席前にある鍵付きのグローブBOXは、スタンダードなS30系と同様の形状。スモール点灯時にフタを開けると、内部の照明が光る

運転席と助手席の間に位置するセンターコンソールの物入れは2つに区切られている。前期型のS30系で共通するパーツだ

スイッチ、操作系

ステアリングコラム右側にウィンカーレバー、左にライト&ワイパースイッチレバーが位置する。ウィンカーレバーはカチッとした感触ではないが、しっかりとしていて好感が持てるもの。ライトは先端のダイヤルを回し、ワイパーはレバーの上下で操作する

ボンネットオープナー・トリップリセット

ダッシュボード右下にある車の絵が入っているレバーがオープナー。ステアリングシャフトの右側にはトリップメーターのリセットノブがある。この位置にあるのはオーナーでないとわからないかもしれない

サンバイザー、ルームミラー

天井と同じ素材で仕上げられたサンバイザー。ルームミラーは小ぶりだが、リヤガラスからの後方視界は十分にカバーする形状となっている

室内灯

室内灯はルーフ後部のリヤハッチとの間に位置している。ドアオープンで自動点灯する他、スイッチで常時点灯させることもできる。照度はやや控え目だ

チョーク、ベンチレーション

冬の始動に使うチョークレバーはシフトノブの左横にある。レバーを手前に引いてスターターを回し、エンジンが暖まったら前へ戻す。空調はエンジン熱を利用した温度調整と、デフロスターと室内足元への切り替えの他、ファンによる外気の送風など走行環境によって選べる

カラー

純正BODYカラー

グランプリホワイト

グランプリマルーン

グランプリレッド

純正室内内装カラー

ブラック

カラーバリエーションは3種類のみで、スタンダードなS30よりも限定したところがまた心憎い。人気色は撮影車と同じマルーン。他の色は逆にレアとなる。どのカラーを選んだ場合でも内装色は黒となる

灰皿

樹脂製のセンターコンソールにハマるアルミ製の灰皿。コンソールのサイズ的な面からか、Zの灰皿は一般的なセダン車よりも小振りに作られている。取っ手が付いたカバーをスライドして開閉させる

Specification

47年式
FAIRLADY 240ZG HS30H

■車体	
全長	4,305mm
全幅	1,690mm
全高	1,285mm
車重	1,010kg
ホイールベース	2,305mm
■エンジン	
形式	L24型直列6気筒
総排気量	2,393cc
気化器	SUツインキャブレター
最高出力	150ps/5,600rpm
最大トルク	21.0kg-m/4,800rpm
燃料タンク容量	60ℓ
■駆動系	
5速マニュアル 3速オートマチック	
最終減速比	3.90
タイヤサイズ	175HR-14
■サスペンション形式	
前	独立懸架ストラット式
後	独立懸架ストラット式
■ブレーキ形式	
前	ディスク
後	ドラム

240ZG HS30H 特徴的装備

G-ノーズ・ライトカウル

空気抵抗を軽減する効果のあるFRP製バンパーとライトカウルがGノーズ。フェンダーやボンネットなどを、スタンダードなZと共有しているとは思えないほど卓越したデザインだ

G-ノーズFRPパーツ

Gノーズは新車時に装着されていた物と、部品として日産が販売した物とでは若干、仕様が異なっている。上の物は新車装着品で、部販品では開口部にラジエターへの導風板が付けられている。開口面積の狭さからくるオーバーヒート対策か

専用ボンネットヒンジ

ボンネットオープン時に、ボンネット先端とGノーズが干渉しないように、ZGには専用のヒンジが採用されている

つや消しブラックワイパー

スタンダードZがメッキであるのに対し、ZGはツヤ消し黒となる。こういった細かいパーツの色使いでも全体的なデザインバランスが取られているのかもしれない

デュアルマフラー

Z432にも採用された高性能車の証とも言えるデュアルマフラーを240ZGにも装備。丸いサイレンサーから縦に並んだマフラーが飛び出る姿は、後続車から羨望の視線を集めたはずだ（写真は社外品）

専用エンブレム&リヤバンパー周り

専用のリヤエンブレムには"G"の文字は無く、"240Z"表記となっている。リヤバンパーはフロントと合わせられたカラーリング

実用燃費

一般市街地 **8.0** km/ℓ

高速道路 **10.0** km/ℓ

排気量の大きいL24搭載の実用燃費は、一般道8キロ、高速道10キロほど。ここに挙げたのは参考数値だが、スタンダードなS30系と比べても高速道の巡航ではハイスピード&長距離になるほど燃費は伸びそうだ

前後オーバーフェンダー

その気になれば7Jから8Jという太い社外ホイールを収めることも可能なオーバーフェンダー。しかし、このように純正の鉄ホイールとホイールキャップという組み合わせも味がある

240ZGの拡大されたボディ寸法の謎

Gノーズ付きのZGは主にフロント部分が延長され全長では190㎜長くなっているが、バンパーを含めたフロントのオーバーハングは、180㎜の差となっている（メーカー公称値）。リヤバンパーにも微妙な差があることを匂わせるエピソードだ。車幅は前後に装着されるオーバーフェンダーで片側30㎜ずつ広げられた格好だ

前席まわり

シボ模様の入った合皮で仕上げられたシートが上級車の雰囲気を醸し出す。室内は意外に広く、身長183㎝、体重78㎏の小誌編集長が乗り込んでもシートのスライド量にはまだ余裕があった

ドアの開口角は広く、内張りの後端、ちょうど良い高さにアームレストがあるため乗り降りはしやすい

ドアハンドル

ドアハンドルはメッキが掛けられた手前に引いて開ける一般的なタイプ。インナー側はドア内張りの中央下部にある。ロックノブは押し込むとロック、上に引き上げると解錠する

シートアジャスト

シートの前後スライドは座面の前側にあるノブ、背もたれの角度はドア側にあるノブでおこなう。現在の車でも主要な方式となっているが、70年代でもスタンダードだった

シートベルト

運転席と助手席に3点式が標準装備。差し込んでロック、受け側にある"Z"マークの入ったボタンを押して解錠する

サイドブレーキ

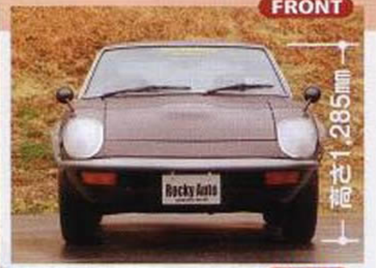
サイドブレーキレバーは運転席座面の横にあり、左手を伸ばせばすぐ届く位置にある。根元には合皮のカバーが付いている

ヒューズボックス

シフトノブ前にあるデフォッガーとパーキングランプスイッチの収まるパネルを摘んで引き上げると、中はヒューズBOXとなっている

コートフック

クォーターウィンドウの上部、ルーフには衣類を掛けられるフックが備えられている。心憎い演出だ



外装

Gノーズ（グランドノーズ）が装着され、190㎜伸びた全長のZG。S30のロングノーズ・ショートデッキがより強調された格好だ。当時、オーバーフェンダーが純正装備された車種は少なく、衝撃的だったであろうことが伺える

給油口

給油口は運転席側のリヤフェンダーにあり、エンジンと共通のキーでフタを開け、金属製キャップを外して給油する。液だれ防止のシートも付く

トランク小物入れ

運転席と助手席それぞれの真後ろにはフタが付いた小物入れがある。車載工具の他、メンテナンスグッズなども入れておくことができる。普段はカーペットに隠れていて、めくると現れる

フェンダーミラー

フェンダーミラーは黒く塗られた砲弾型が装着される。映り込む範囲はそれほど大きいわけではないが、見るからに空気抵抗が少なそうだ

ラゲッジルーム

ほぼフラットとなるZGのラゲッジルーム。2シーターならではの広いスペースとなり、意外にもたくさんの荷物を積み込むことができる。スペアタイヤとカーペットを外すと右の状態になる

フロントビュー

当時、誰もが憧れたであろう240ZGのこの姿。上級のスポーツカーでありながら、ライトカバーが付いたGノーズの顔面はラグジュアリーな雰囲気も漂っている

トップパネル

ボンネットの両脇には独立して開けられるフタが付いており、その下にはバッテリーやウォッシャータンクが位置する

リヤビュー

通称"ワンテール"と呼ばれる、ブレーキ・ウィンカー・バックランプが一体となったテールレンズをもつZGの後ろ姿。前後のバンパーとオーバーフェンダー、テールパネルなどが同系のカラーでまとめられていることも、そのZG独自のデザインをより引き立たせている。リヤハッチにあるエンブレムは"240Z"

FAIRLADY 240ZG HS30H 平均中古車相場

150万〜300万

人気車種であるZGはタマが少ないこともあり、あまり底値の物を見かけることはない。逆に、高くてもオリジナルの状態が良く保たれているのなら、それは珍しい車体。車両の状態にもよるが、通常のS30にGノーズとオーバーフェンダーを装着した"ZG仕様"なら、これよりもやや相場は下がる